

冬野菜生産者の皆さんへ

夏作緑肥「ソルガム」を栽培しませんか ～導入のメリットと栽培のコツ～

徳島県立農林水産総合技術支援センター・J A 徳島県

春～夏の休閑期に何も栽培していない畑はありませんか？
ソルガム（通称：ソルゴー）の栽培は想像以上にメリットがあります。
少しのコツをおさえて上手に利用しましょう。

導入のメリット

その1 コストや手間がかからない

- ①種子が安い
ソルガムの種の一般的な価格は1袋1kg入り700円程度
10aあたり5袋使用で3,500円
- ②播種は軽作業 ⇔ 堆肥の散布は重労働
- ③除草の手間が省ける（雑草抑制）
- ④ロータリーですき込める（30馬力以上推奨）



散粒機とソルガム種子

その2 土づくりになる

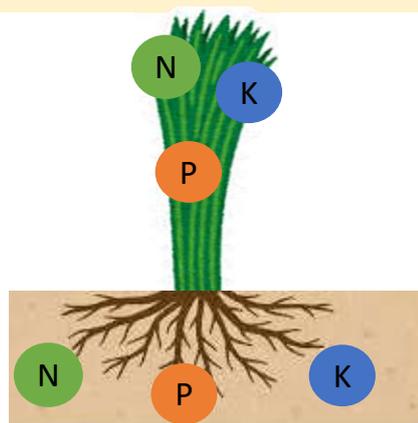
- ①土が軽く柔らかくなる
- ②ソルガムの根が耕盤層を壊してくれる
- ③排水性がよくなる
- ④微生物が増える、また多様化する
→特定の病害虫が増えにくい



すき込み前のソルガム

その3 肥料を有効利用できる → 後作の肥料を減らすことができる

- ①前作で使い残った肥料を吸収してくれる
- ②土や肥料が雨で流れるのを防いでくれる
- ③下層に流れた肥料を上層に戻してくれる
- ④リン酸を有効化してくれる
- ⑤吸収した肥料はすき込まれ、後作の肥料になる
- ⑥土の肥料保ちがよくなる



裏面で栽培のコツを紹介

ソルガム栽培のコツ

STEP 1

播種

- ①湿害を受けやすい
水がたまりやすいほ場は避ける
- ②野菜後は無肥料でOK
葉色が薄いと感じたら肥料を散布
10aあたり窒素4kg（硫安1袋）程度
- ③5月下旬～6月中旬の雨降り前に播種
緑肥用ソルガム種子を散粒機で10aあたり5kg散播
- ④薄くロータリーをかけて覆土する
覆土しないと発芽不良や鳥の食害リスク高



湿害による生育不良

STEP 2

すき込み

- ①すき込むタイミングは穂が出る直前から出始めの頃
播種後40～50日、草高180～200cmが目安
- ②早すぎるとメリット薄れ、遅すぎるとデメリット発生
（遅すぎるデメリット）
 - ・腐熟期間が長くなり、後作でのリスク増
 - ・茎が硬くなり、ロータリーですき込めない
- ③トラクターに負担をかけないすき込み方
先にロータリーを回転させずにソルガムを押し倒す
反対方向（葉先側）からロータリーをかけてすき込む



回転させずに押し倒し



反対方向からすき込み

STEP 3

腐熟・冬野菜で減肥栽培

- ①すき込み後、1ヶ月以上腐熟させる
理由) 微生物が急増するので落ち着くまで待つ
窒素飢餓、ガス障害、立枯などのリスクが減る
- ②耕耘回数を増やしたり、石灰窒素を散布すると腐熟が促進される
- ③ソルガムは加里の吸収が多い
草高180cmで30kg以上/10aの加里を吸収→後作で利用することができる

《年内どりブロッコリーにおけるソルガム減肥試験》 2024年度JA徳島県管内6カ所

蓄積しやすいリン酸とソルガムに含まれる加里成分を減らしたL型肥料を基肥利用

慣行区：ソルガム無+基肥 ブロッコリー配合（16-10-14） 100kg/10a

試験区：ソルガム有+基肥 堆肥入りL型肥料（18-4-8） 75kg/10a

※追肥は標準量を施用

（結果）○収量・品質は同等以上 ○化学肥料は約4割減（三成分計）

○資材コストは約6,000円/10a減（肥料代+種子代）